

本部申26号

5月30日開催

2018年度夏季手当に関する申し入れ 第1回交渉 趣旨説明を行う!

組合

- 2017年度期末決算は、単体で営業収益・運輸収入は6期連続増収で過去最高。当期純利益は過去最高を記録している。2018年度の通期の業績予想は、インバウンド拡大、新規商業施設の開業などで増収を見込んでいる。
- 各系統で慢性的な要員不足の中、休日出勤や勤務調整、年休を消化できずに流してしまう組合員もいる。それでも業績に結びつけてきたのは現場第一線で働く組合員の努力と家族の支えがあったことを忘れてはならない。
- 業績の伸びが見込まれ株主配当も増額になる予定だが、組合員が納得できる成果配分がなければ株主だけを優遇した利益配分と映る。それでは会社の言う「時間軸を置いた業務改革と生産性向上の実現」はできない。18年度目標をクリアーするためのモチベーションを創り出すことも重要だ。
- 夏季手当は対象期間中の業績の反映だ。実績に相応しいものを出すべきだ。この間会社は「労務単価の上昇や原油価格の上昇など、営業費用の大幅な増加は懸念材料」「全体としては緩やかに回復しているが慎重に判断」と抑制の理由を述べているが、これらの懸念材料を乗り越えての決算であることを評価し応えるべきだ。
- JR 東日本の持続的発展のため、日本一の鉄道会社として、デフレ脱却、経済の好循環のためにも社会的役割・責務を果たすべきだ。今後も JR 東日本を成長させていくためには人材の確保・育成は重要であり、人への投資は必要不可欠である。
- 基準内賃金の3.1ヶ月プラス5万円を要求した。要求は昨年と同じだが、満額回答を求める決意と受け止めて頂きたい。5万円定額を求めているのは、若い人と上位職および年齢が高い人との格差を少しでも是正し、公平感・納得感を持ってもらうためである。18春闘では採用給の5,000円増額と経過措置が取られたが、入社6年目以降の組合員から納得感が得られていない。会社の姿勢を組合員が実感できる回答として満額回答を強く求める!

会社

- 期末決算は増収増益で営業収益・当期純利益が過去最高。これはすべての社員が安全・安定輸送のレベルアップやサービス品質の向上、増収施策等を取り組んだ成果であり、会社として感謝を申し上げる。
- 営業費用は修繕費・動力費が当初計画より増加しており、留意する必要がある。営業費の上昇に伴う動力費や労務単価の上昇もあり修繕費が増加。営業費用の更なる増加が見込まれる。鉄道事業の特性として、会社としてコントロールできる幅が少ない固定費の割合が大きい特性がある。収入やコスト動向など個々の動向を慎重に見極めていく必要がある。
- 時代の変化に対応していくために経営課題が3点ある。1点目は安全・安定輸送のさらなるレベルアップ。2点目は鉄道生活サービス、IT・Suicaなど事業全般にわたる新しい成長戦略の実行。3点目は技術革新、ダイバーシティの取り組みを通じた業務改革と生産性向上の推進だ。
- 生産性向上をはじめとした各施策について、時間軸をしっかりと意識して、スピード感を持って真摯に議論を行い推進していく。社員が気兼ねなく自己啓発や、意欲あるチャレンジなど職場風土を創って社員の成長を促していく。職場秩序を維持して、安心して働きがいのある環境を守りつくりていくことをお願いしたい。
- 5期連続の賃金改定を行っている。昨年度は管理手当や扶養手当の見直しを行い基準内賃金が増加。エルダー社員の賃金水準の引き上げの影響もあり、総合的に判断していく必要がある。
- 鉄道事業という特殊性、高い公共性を有している。世の中と比較しても月数、支給額など十分高い水準だ。突出感のないように留意をして議論を行いたい。

全組合員の方を結集し満額回答を勝ち取ろう!

満額獲得に向けて、直面する施策と課題に向き合いたたかいを強化しよう!